

はなれていても

平野 康幸さん（白石） 福島県福島市在住



妻の正子さん

獣医師として、福島県農業共済組合・浜通り家畜診療所に赴任したのは昭和58年のことです。畜産農家の後継者に、同学年の人がたくさんいて、やがて家族ぐるみの付き合いになりました。和牛改良組合の取り組み、草野肥育センターのET（受精卵移植）の取り組みなども同世代が引継ぎしていました。面白かったですね。この地域だからこそ叶えられる夢がありました。私は白石地区に家を建て、いわ

きから両親を呼び寄せて、平成3年に移住しました。東日本大震災は、飯館牛のブランド力が高まり、さあこれからという時に起きたのです。そして、原発事故。酪農家は毎日搾乳し、その牛乳を廃棄して牛舎の掃除を続けました。全村避難となり、和牛も売却か移転再開の二者択一に置かれました。「先生なら俺達の気持ち分かってくれっべ」。涙でぐちゃぐちゃになりながら言われ

ました。私は避難する牛の積み込みを手伝い、同行し、村に残って診療を続けました。給油制限がある中で、獣医師がいなくなった沿岸部にも行きました。そして最後に、人々と再会を誓って、村を離れたのです。私もまた仕事がブツンと切れました。人生を断ち切られたような感覚でしたね。その後、帰還困難区域で野生化した牛の内部被曝検査が行われることになり、私に声がかかりました。学術調査のボランティアです。浪江町に通い、検体を現地で解剖し、分析したら元の場所に戻すという作業を繰り返しました。牛舎で死亡したままの家畜もいて、言葉にならない光景を目の当たりにしました。現在、村内では2軒の畜産農家で診療に関わっています。避難先で畜産を続けている人も含めて、若い後継者のこれからの挑戦に期待をしています。特質のある、新しい飯館牛をつくってほしいですね。

話題のパレット

一閑張りで村民交流事業



みんなの作品展で展示

5年目を迎える『いいたてネットワーク』の村民交流事業。今年の初回は、佐藤美喜子さん（写真中央／関根・松塚）を講師に一閑張りのカゴづくりを楽しみました。代表の横山秀人さん（前田・八和木）は「交流事業は広報いいたてお知らせ版でご案内していきます。ご興味があれば、ぜひ一緒に楽しみましょう！」と広く参加を呼びかけています。

飯館村婦人会が奉仕活動



10月2日、「飯館村婦人会」（長谷川花子会長／前田）が美化活動を行いました。当日は17人が参加し、白石地区から飯館村役場までの区間で、空き缶やゴミをていねいに拾い集めました。「前回よりゴミが減っていてうれしい」との声も。地域のための活動を継続いただき、ありがとうございます。

新宿調理師専門学校からの贈り物



10月18日、新宿調理師専門学校（東京都）の上神田梅雄校長が来庁。同校の生徒が村民のために手作りした無添加の味噌とその味噌を使ったパウンドケーキ100セットを届けてくださいました。同校の支援活動は6年連続です。心のもった贈り物は、飯館村社会福祉協議会を通じて、サポートセンター「つなごっぺ」の利用者などにお渡しし、想いと共に味わっていただきました。

身近な話題をお寄せください
☎0244-42-1613
村づくり推進課企画係

宮内行政区3団体で美化活動



10月16日、宮内行政区の老人会・婦人会・お茶会の3団体のメンバーが、合同で環境美化活動を行いました。当日は雨が降る中、村内外から約20人が集まり、4～5人のグループに分かれて行政区内一円を清掃。団体の枠を超えて活動したことは今回が初めてで、楽しく充実した時間を過ごしました。

交流センター「ふれ愛館」だより

「飯館村男女共同参画計画」策定へ 第1回策定委員会を開催しました



「飯館村男女共同参画計画」第1回策定委員会（佐藤修治委員長／前田）が、9月16日に交流センター「ふれ愛館」で開催されました。この日は有識者を交えてグループ討議を行い、共通理解を深めながら、計画策定の進め方などを話し合いました。

「飯館村子ども読書活動推進計画」を 策定する委員会が発足しました



10月8日、「子ども読書活動推進計画」第1回策定委員会が、交流センター「ふれ愛館」で開催されました。この委員会で、平成26年策定の計画を見直します。委員となった村民・教職員・村職員らが熱く意見を交わしました。次回は12月開催の予定です。

問
交流センター「ふれ愛館」
☎0244-42-0072